

浜岡原子力発電所 5号機の排気筒排ガスからの微量な放射性物質の検出について(続報)

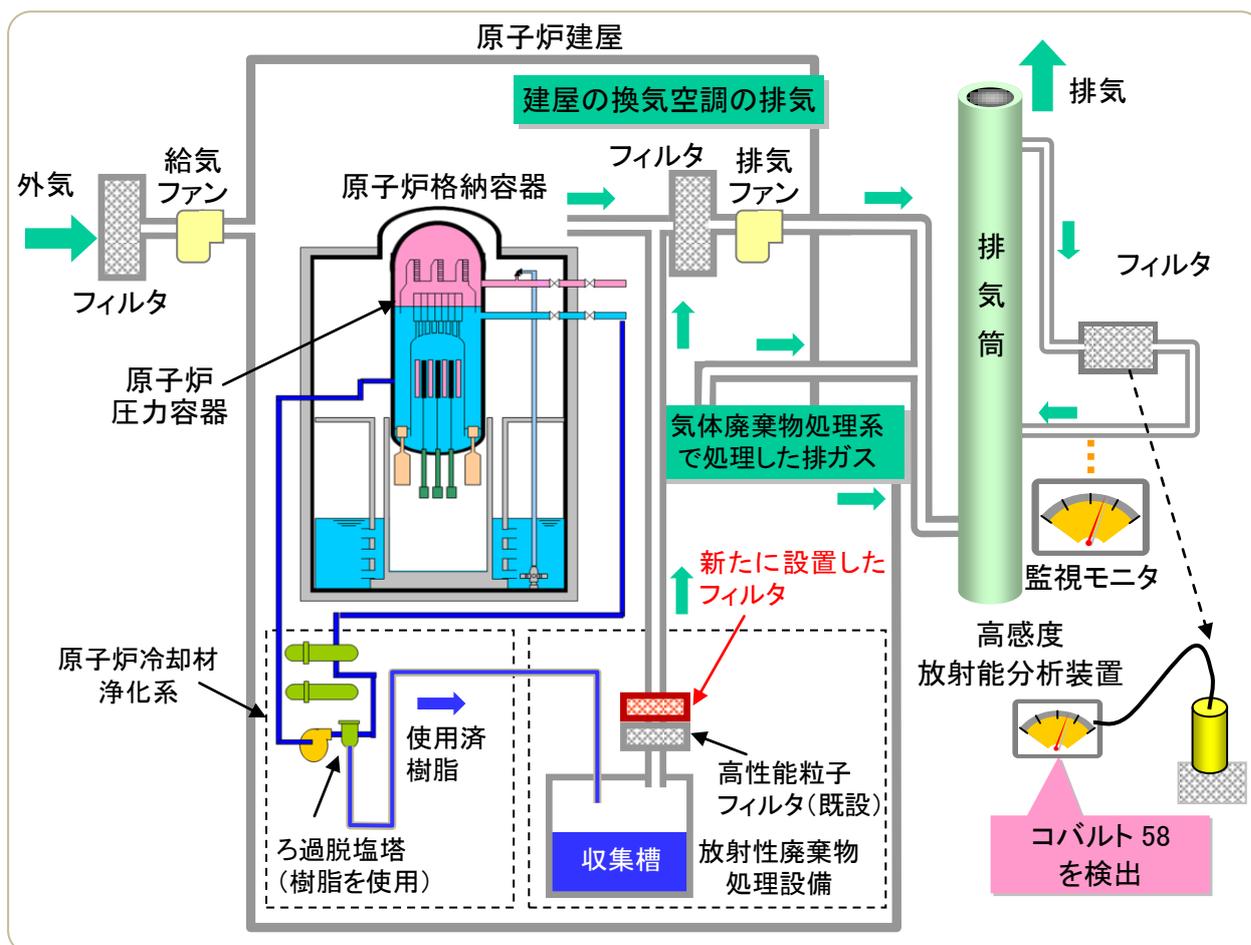
2011年6月2日

当社は、2011年5月25日に5号機排気筒のフィルタから、微量な放射性物質(コバルト58^{*})を検出した事象について、対策をおこないましたのでお知らせします。

調査の結果、原因は原子炉への海水流入により、原子炉水の水質がほぼ中性からアルカリ性に変化したことで原子炉水中のコバルト58の粒子が通常状態より小さくなり、一部の粒子が収集槽の排気ダクトに設置している高性能粒子フィルタを通り抜け排気筒へ流れ検出したものと推定しました。

そのため、粒子の小さくなったコバルト58も除去できるフィルタを新たに設置しました。

対策が完了したことから、今後、原子炉水の浄化操作を再開します。



【これまでにお知らせした内容】

当社は、5号機の原子炉への海水の流入にともない、原子炉水の浄化をおこなっている原子炉冷却材浄化系の使用済樹脂を収集槽へ排出した際、収集槽内でコバルト58が空気中に移行し、収集槽の排気ダクトを通じて排気筒へ流れ、排気筒排ガスから微量検出した事象について、その対応として、原子炉水の浄化操作を中断しております。

(2011年5月26日お知らせ済み)

※ コバルト58は、原子炉水中のニッケル58に中性子があたることで発生する放射性物質であり、通常から原子炉水中に含まれています。

以上